

## 日本の大学図書館における学生協働の変遷

### Transition of Collaborations with Students at College and University Libraries in Japan

学籍番号:201521652

氏名:顧 雅威

Yawei GU

近年の大学教育改革政策のもと、大学における学習支援が見直されている。大学教育では、質的保証が求められるとともに、アクティブ・ラーニングが取り入れられ、大学図書館にはラーニング・コモンズの設置が増加している。

このような変化に対応するため、学習支援を担う大学図書館は新たな学びのあり方を模索している。例えば、図書館外の部署との協働や、学習支援に学生スタッフを導入するなどである。大学図書館では、アルバイトやボランティアという形で学生スタッフを導入してきた。学生スタッフは、テクニカルサービスやパブリックサービスの補助業務を行っているが、近年は「学生協働」という表現が使われるようになってきている。

本研究では学生協働を「学生と職員と共に業務やサービスを行うこと」とし、大学図書館における学生協働に焦点をあて、その変遷を明らかにするとともに、学生協働および学生スタッフのメリットや課題を明らかにすることを目的とする。

本研究では、文献調査とインタビュー調査を実施した。文献調査では、高等教育政策および大学図書館政策にかかわる報告書や論文等を対象として、学生スタッフ導入の背景や、役割の変化を調査した。また、図書館関連雑誌記事から学生スタッフおよび学生協働に関する記述を抽出し、その業務内容や役割の変遷を明らかにした。その結果、学生スタッフの業務内容や役割は、情報リテラシー教育やレファレンス・サービスなどに広がるとともに多様化していることが明らかになった。

また、学生スタッフを導入している大学図書館の職員および学生スタッフを対象として、そのメリットや課題について、半構造化インタビューを実施した。その結果、大学図書館にとって学生協働は、学習支援などの図書館サービスを量的質的に保障するとともに、学生ニーズを反映させたサービスを展開できるなどのメリットがあることが明らかになった。また課題としては、OJT、Off-JTを充実する必要があること、学生協働の活動を周知する必要があることなどがあげられた。

研究指導教員:呑海 沙織

副研究指導教員:溝上 智恵子